

# 平成30年 8月 データから見た業界の動き

## ■ 概 況

平成30年8月の山梨県内のD I値は、製造業では前年同月比・前月比ともに好転とならなかったのに対し、非製造業では前年同月から大きく改善した。非製造業の大きな改善から全業種では、前年同月と比較し、売上高こそ8ポイント悪化したが、収益状況は10ポイント、景況感は16ポイント改善した。

前月との比較でも同じような結果となっている。

製造業ではこれまで好調であった半導体関連の発注量の落ち込みから製造業全体として、売上高、収益状況、景況感ともに低下傾向。元々夏季休業日のある8月は低下する期間であるが先行きに不安を感じる。

非製造業では、記録的な猛暑から消費者の外出控えや、作業現場の生産性低下の報告があったが、建設業での公共・民間工事の件数増加の影響から非製造業全体として、前年同月比で売上高は7ポイント、収益状況は24ポイント、景況感は20ポイントそれぞれ改善した。9月以降に着手が行われる工事も予定されているが、業界での技術者不足による工事の遅れへの危惧や、受注を控えることも考慮しなくてはならないとの報告があった。

主要3指標からみるD I値は緩やかに改善傾向であるが、燃料費や原材料費の高騰、人材不足など中小企業者の抱える経営環境は厳しいままである。秋以後どのような変化があるか注視していく。

## ■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

### ● 製 造 業

食料品 (水産物加工)	西日本豪雨被害及び猛暑の影響から、前年同月比の売上はギフト関係・業務用とも不調。特におせち関係は昨年では8月から受注があったが今年は9月以降にずれ込んでおり、全体の売上は前年同月比81.8%と不振であった。
食料品 (洋菓子製造)	自社製品は専門店向け及び量販店向けとも落ち込んだが、輸出向けが好調で108%。OEMは焼き菓子・冷凍ケーキが不振で95.7%全体では前年同月比102.7%。
食料品 (パン・菓子製造業)	人材確保が課題であり、組合員企業では繁忙期に外国人を雇用する機会があるが、コミュニケーションの難しさを感じる人が多い。
食料品 (酒類製造業)	8月はワインの原料であるブドウの生産に適した天候が続いた。ブドウの出来は9月までの天候にかかっているため今後に期待している。
繊維・同製品 (織物)	裏地の受注はあるが、準備工程 (撚糸・染色等) が間に合わない状況である。今夏は男性用のUVカット傘の売上が増加した。
繊維・同製品 (アパレル)	商品の売上は順調に推移しているが、アイテム、ロット数量、工賃は下降状況であり、差別化した商品の展開が望まれる。
窯業・土石 (砂利)	中部横断自動車道、リニア中央新幹線関連の工事により出荷量が増加し、売上高は前年同月比30%増加した。
窯業・土石 (山碎石)	中部横断自動車道工事により出荷量が増加。中部横断道道関連を除くと前月比から1%減少しており好転の兆しはない。前年同月比で売上高、収益状況が15%増加した。

鉄鋼・金属 (金属被覆・彫刻業・熱処理業)	半導体関連・通信機器は、受注調整が行われているが順調な傾向である。今後の状況に注視していく。
電気機器 (工作機械部品加工業)	見積件数は増えてきたが受注までには至っていない。受注から納品までに4～5ヶ月掛かり、請求額の回収までは更に2ヶ月程度かかるため、資金繰りは改善されておらず業界の景気の回復は実感できていない。
電気機器 (工作機械部品加工業)	半導体関連の受注の落ち込みが前月より大きくなり、先行きが不透明な状況が続くと考えている。

## ● 非製造業

卸売 (ジュエリー)	8月末にジャパンジュエリーフェアが開催され、県内からは55社が出展した。販売先は中国バイヤーが主で、日本企業への小売等は購入量・金額とも少額であった。国内の流通は低調なため、海外フェアへの出展による取引に期待している。
小 売 (青果)	晴天が続き果物の糖度が上昇し、お中元用の桃、ブドウの売上・収益状況が増加した。野菜は品種により品薄が続き、苦慮した月であった。売上高は前年同月比8.6%、収益状況は5%増加した。
小 売 (電気機械器具小売業)	猛暑の影響からエアコンの売上が好調。売上高、収益状況共にそれぞれ前年同月比15%増加した。
宿 泊 業	台風の影響による宿泊客のキャンセル等が見受けられた。今年は盆休み期間が長かったため宿泊が分散した傾向となった。
美 容 業	猛暑により、若い女性が涼みに立ち寄る傾向が見られ、高齢者の数は外出を控える傾向により減少した。夏は固定客の来店頻度が短くなり売上が増加傾向であり、前年同月比で売上高10%増加した。
一般廃棄物処理	中国がプラスチック再生資源材料の輸入を制限したことにより、事業者によっては、新たな受け入れ先の開拓に着手しなければならない。また、相手先の要望によっては従来の加工ラインを変更せざるを得ない状況も考えられ、設備投資によるコストの発生が懸念されている。
警 備 業	年度初めから各組合員とも前年比を上回る業績となっているが、深刻な人材不足により従来からの取引先の業務が受注できない状況にある。人材不足に加えて猛暑により警備員の健康管理を考慮し、警備体制を見直して稼働削減を図るほか、事業の受注を控えざるを得ない状況であった。
建設業 (総合)	8月の県内公共工事動向によると、前年同月比で件数は8%、請負金額3%共に増加している。8月末累計では件数8、請負金額17%増加している。
建設業 (型枠)	8月は好調で売上高は10%増加した。9月以降も公共・民間工事が着工され、非常に忙しくなることが予想される。しかし、人材不足による工事の遅れ、職人不足による賃金の高騰及び材料の高騰や福利厚生費が適正に工事価格に転嫁と工事代金回収が行えなければ収支のバランスが狂い、資金ショートなど経営に支障が出てくる恐れがある。
建設業 (鉄構)	鋼材・資材の高止まり及び在庫不足・納期の遅れがあり、発注のタイミングが難しい。
設備工事 (管設備)	民間工事の受注額が、前月は製造業の工場や不動産業の宿泊施設など増加したのに対し、今月は減少した。公共工事の受注額は建築・土木とも減少している。今後の見通しはまだ不透明な部分が多く、状況を注視していく。

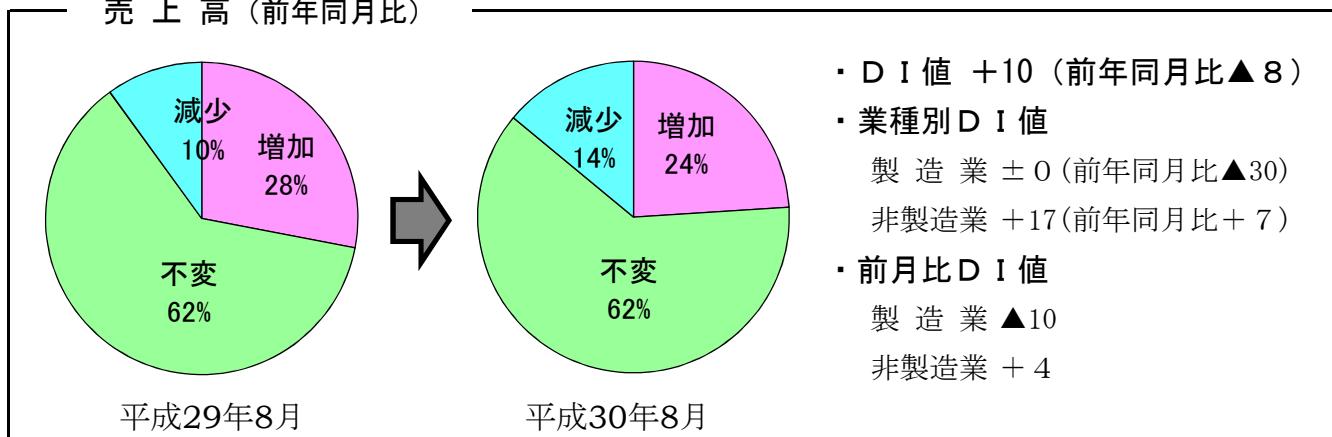
運輸（タクシー）	猛暑により外出を控えたがる影響から、タクシー利用客が大幅に減少し売上高も減少した。燃料の高騰も続いている。
----------	---

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

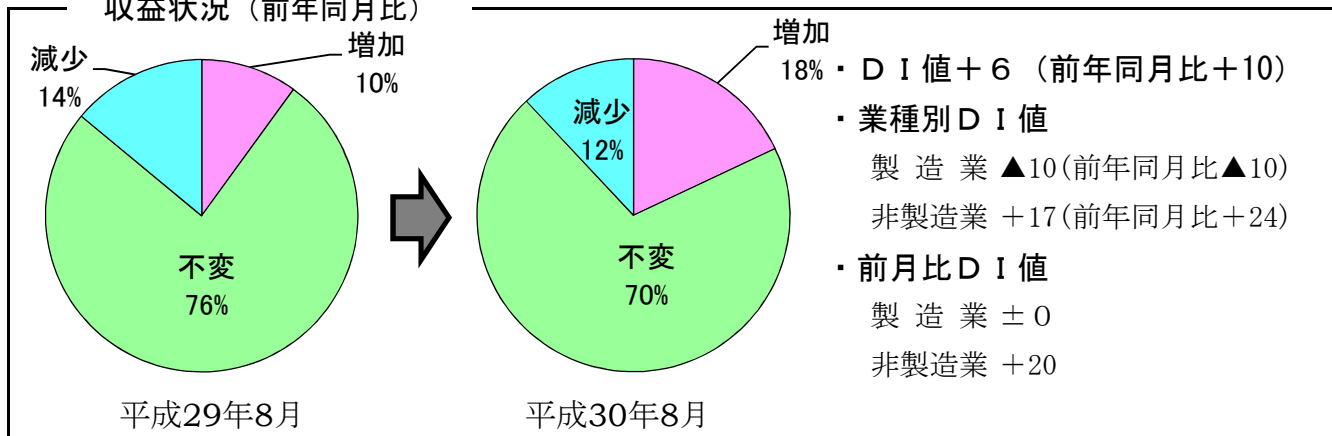
対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2017/08	2018/07	2018/08	2017/08	2018/07	2018/08	2017/08	2018/07	2018/08
売上高	30	10	0	10	13	17	18	12	10
収益状況	0	-10	-10	-7	-3	17	-4	-6	6
景況感	-5	-10	-10	-10	3	10	-8	-2	8

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

